

## 河川における高潮対策整備方針検討委員会（第2回） 議事要旨

日時：令和6年9月17日（火） 15：00～17：00

主な意見は以下のとおり。

- 各河川の優先度の考え方について、被害の深刻度は各指標に重み付けを行うことが重要で、感度分析を行い指標の重み付けを変化させても優先度が大きく変わらないか、といった検討が必要である。
- 被害の深刻度において各指標の重み付けに妥当性を持たせるのは難しい。優先度評価において、深刻度評価をどういう位置づけで行い、どのように意思決定するかを改めて整理し、深刻度評価の検証結果を整理するとよい。
- 橋梁対策において、現計画高潮位や現計画堤防高に対して対策が必要な橋梁がある場合は、優先的に対策する必要がある。
- 排水機場のポンプ能力算出において、気候変動に伴う海面上昇量や降雨量変化倍率など、不確実性が高い変数が多い。各変数が変化することでどの程度ポンプ能力の結果に影響するかを評価し、事業規模が過大にならないかの検証をするとよい。
- 橋梁対策において、緊急輸送道路ではないが、避難経路として重要な道路であるかどうかとも考慮すべきである。また、文化財と緊急輸送道路の両方に位置付けられている橋梁について、架け替えが困難だが避難路としても重要である場合には、ソフト対策等に対応するといった視点も必要である。
- 水門対策による排水機場の必要ポンプ能力の算出にて、雨が降る前に事前に排水機場を運転して水位を下げた場合についても検討してはどうか。
- 河川からまちづくりにどうアプローチするかは非常に難しいテーマである。例えば橋梁対策にて陸間により避難がしづらくなるとの課題については、まちづくりや道路管理者、地域の方々とコミュニケーションを図りながら考えなければならない。

以上